



2007年6月29日 第2007-54号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】政策政治グループ

03-3451-2425

E-MAIL : seisaku.seiji@jam-union.jp

社会保険庁関連3法案

参院厚生労働委員会でまたもや強行採決！！

6月28日、参議院厚生労働委員会が開催されました。野党議員が継続審議を訴える中、委員長が「日本年金機構法案」「国民年金事業等運営改善法案」「時効年金救済法案」の採決を強行し、与党の賛成多数で可決しました。

隠蔽体質浮き彫りに

午前中は共産党、社民党が質疑を行いました。この中で、津田弥太郎議員を含む野党議員が、旧台帳が保管されている民間倉庫を視察しようとしたところ、村瀬社会保険庁長官の妨害により視察できなかったことが明らかになりました。旧台帳の記録がオンラインに入力されているのか確認したいという要求に対して、社会保険庁は「個人情報」という理由で拒否の答弁を繰り返しました。

午後からは、辻泰弘議員をはじめとする民主

党議員が質疑を行いました。辻議員は、国民健康保険の調整交付金ミスを追及し、「厚生労働省の社会保険制度に対する杜撰さがあらわになった。厚生労働省こそ解体すべきである」と柳沢大臣に厳しく迫りました。また保険料納付に関する2年の時効原則を見直すよう求めましたが、柳沢大臣は「特例措置以外の時効延長は制度の骨格を揺るがすことになるので2年を守りたい」と否定しました。

この他、民主党議員はこれまでの審議で政府が明らかにしなかった点を改めて追及しました。これにより、資料隠し、不適切な業務委託などが次々と明らかになりました。委員会はあいまいな答弁や虚偽の答弁により何度も中断。18時55分、質疑終了後、委員長は「十分な審議を行った」として抗議する野党議員に取り巻かれながら採決を強行しました。

参議院厚生労働委員会筆頭理事 津田弥太郎議員のコメント

厚生労働省と社会保険庁が資料を隠し続け、虚偽の答弁を繰り返し、今日までの委員会審議が行われてきた。

しかも、これまでは、与野党が理事会で合意したことしか行ってこなかったのに、ついに合意していない採決を委員長が強行してしまった。こうした裏切りは到底許すわけにはいかない！

本当は、もっと身体を張って阻止したかった。しかし、国会議員として暴力を振るうわけにもいかなかった。非常に辛かった。「消えた年金」の被害者の方には本当に申し訳ないと思っている。

必ずみんなの力で選挙に勝って、しっかりとした取り組みをしていきたい！！